



我が社のアジア出身 ☆ 期待のエース

株式会社豆蔵

代表取締役社長 中原 徹也氏

新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビルディング 34 階
TEL : 03-5339-2114 <https://www.mamezou.com/>



事業内容
クラウドソリューション事業、デジタルソリューション事業、ロボティクスソリューション事業、製造業ソリューション事業、教育ソリューション事業

デジタル戦略支援事業部 IT コンサルタント

燕 興 (エン・コウ) さん

中国出身
2013年 唐山(トウザン) 学院外国語学院日本学科卒業
2015年3月 千葉大学・研究生修了
2017年3月 千葉大学人文社会科学部研究科・博士前期課程修了
2017年4月～ 千葉大学融合理工学府・博士後期課程(2024年3月博士号を取得見込)
2021年11月 株式会社豆蔵入社



中原社長(左)と燕さん(右)

株式会社豆蔵は、1999年の創業で、ソフトウェア工学を軸に技術のプロフェッショナル集団としてお客様の内製化や開発をご支援してきました。2021年より株式会社豆蔵デジタルホールディングスが設立され、同社は中核企業を担っています。近年では、サイエンスの科学的なアプローチとソフトウェアエンジニアリングの両輪で、お客様のDXを強力に推進しています。

今回、同社から「期待のエース」としてご紹介いただいたのは、AIソリューションのコンサルティングおよびAI搭載のチャットボット「MZbot®」の開発と保守に従事されている中国ご出身の燕興(エン・コウ)さんです。

エース選出の理由を中原社長はこう語ります。「豆蔵のデジタル戦略支援事業部は、AIを専門とする当グループの頭脳集団ともいえる事業部です。AI事業は当グループが今後の業容拡大を目指している非常に大事な事業であり、同事業部に在籍する燕さんを選出しました。豆蔵のお客様はグローバル企業が多いため、国内でサービス開始後にアジアや中国へ展開される

ケースがほとんどです。外国での生活経験や外国の文化に造詣が深いことは、グローバル展開を進める上で重要な柔軟性や適応力につながるため、燕さんも力を発揮してくれるものと期待しています」(中原社長)

「抜群に高い技術力」と「研究の知識と経験を活かせる環境」

燕さんはお母様の影響で日本映画をよく見て育ち、小さい頃から高倉健さん演じる義理堅い主人公に憧れていました。大学では日本語を専攻し、日本語をとっても美しい言語だと感じた燕さんは、日本語会話分析の専門家・伝康晴先生の門下に入り、さらに修士・博士課程では自然言語処理、自動対話システムなど、言語にかかわる先端技術にも触れました。長年の研究で得た知識を社会に還元したい、かつ日本が好きということから日本で働くことを決めました。

豆蔵に就職したのは「抜群に高い技術力」と「研究の知識と経験を活かせる環

境」という二つの理由から。豆蔵は数多くの大学と連携してプロジェクトを行っています。社内のAI技術チームには研究経験を持つ社員が多数在籍し、大学で行った研究や最先端のAI・データサイエンスの技術を、豆蔵を通じて世の中に発信しています。自分が学んだことを社会に還元できる環境、会社が技術者の成長を最大限支援してくれること、加えて働き方が柔軟に選べてワーク・ライフ・バランスが充実していることから、燕さんは仕事と生活の両方に充実感を感じているそうです。

日本語教師の経験もあり、美しい日本語を話す燕さんですが、さらに日本語を上達させようと取り組んでいるそうです。「日常生活では日本語で困ることはほとんどありませんが、コンサルティング業務ではお客様との深いコミュニケーションが必要です。例えば、日本語の会話で言い切らないような言い方がよく使われますが、外国人には相手の真の言いたいことを理解するのが難しい会話です。日本文化への理解を混ぜた日本語能力が必要になってくるかもしれません。当然、それは容易にできることではありませんが、日本社会に関心を持って、日本人と交流を深めていく中で自然に上達するかと思います」(燕さん)

最後にビジネスの目標を聞きました。「豆蔵の技術力、企業理念は日本だけではなく、世界にも通用します。近い将来、豆蔵がグローバル市場にも活躍できるよう力を貢献していきたいと思います」(燕さん)。

MAMEZO DIGITAL HOLDINGS ～豆蔵デジタルホールディングスの事業領域～

企業の「人、技術、プロセス」のデジタルシフトを実現し、顧客と共に「デジタル競争力」をつくりだすデジタルシフト・サービス。

お客様がIT投資の主導権を手にして、デジタルシフトを実現していくことが求められています。そのようなソフトウェアファーストをサポートしてお客様の事業革新のエンジンとなることを目指し、ソフトウェア工学を軸とした圧倒的な技術力と、各分野のトップクラスの人材の持つ知識や経験、スキルを結集して、企業の持続的なデジタル革新を支えます。